



NISHI EYE HOSPITAL

西眼科だより 第15巻1号

(季刊誌)

2013年1月発行

編集責任者：倉橋美雪

Nishi Eye Hospital

西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26 TEL: 06-6981-1132

〈ホームページ〉 <http://www.nishi-ganka.or.jp>

あけましておめでとうございます



2013年 最新眼科医療

新しい白内障手術《フェムトセカンドレーザー白内障手術》

フェムトセカンドレーザーを使用した白内障手術を導入しました。水晶体囊の前面を真円に切除する事が可能で、眼内レンズを水晶体囊の中心に移植でき、レンズの変位や傾きを最小限にする事ができます。また水晶体乳化吸引の超音波手術で使用エネルギーを大幅に低減する事ができ、眼の負担が少ない方法です。

白内障プレミアムレンズ1《老視矯正眼内レンズ》

☆多焦点(遠近両用)眼内レンズ mIOL

近くにも遠くにもピントが合う遠近両用の眼内レンズです。当院で行う「多焦点(遠近両用)眼内レンズを用いた白内障手術」は「先進医療」として厚生労働省に承認されています。患者さんは、通常の「単焦点眼内レンズ」か「多焦点(遠近両用)眼内レンズ」を選択できます。

☆追加挿入型 多焦点(遠近両用)眼内レンズ Add-On

既に白内障手術を受けられ、従来の単焦点眼内レンズを挿入されている眼に、更にもう1枚 多焦点(遠近両用)眼内レンズ Add-On(ドイツ製)を追加挿入し、遠方近方両方に焦点が合うようになります。術前術後の診察・検査・手術代(レンズ代含む) Add-On に関わる治療代は全て自費診療となります。

白内障プレミアムレンズ2《トーリック眼内レンズ》

乱視を軽減できる「新しい眼内レンズ」です。手術後の裸眼視力が向上し、乱視用のメガネをかける必要性が少なくなります。

新しい緑内障手術《エクスプレス™》

緑内障の眼圧低下を目的とした手術に用いられる「エクスプレス™ 緑内障

「フィルトレーションデバイス」の保険の適用が認められました。薬物治療やレーザー治療などの治療法では十分な眼圧下降が得られない患者さんに、新たな治療の選択肢をもたらすこととなります。緑内障の治療法の1つとして、眼圧を低下させるために眼内の房水を眼外に流出させる手術があります。この手術において「エクスプレス™ 緑内障フィルトレーションデバイス」は、房水流出経路の役割を果たす管(チューブ)として機能します。従来の方法より合併症を少なくする事ができます。

《硝子体手術》

最新の硝子体切除器械 コンステレーションを導入して約 3 年になります。5000 回転の高速カッターにより、従来より容易かつ安全で手術時間も短縮されています。

《角膜内皮移植(DSAEK)》

角膜の混濁(水疱性角膜症)を改善する治療法です。角膜内皮細胞(傷んだ部分)だけを取り替える角膜内皮移植(角膜パーツ移植)手術です。良い結果が得られています。

《角膜クロスリンキング(CXL)リボフラビン紫外線治療》

円錐角膜・角膜拡張症・角膜水疱症の進行を抑える新しい治療法です。角膜実質のコラーゲン組織にリボフラビン点眼液を浸透させ、長波長紫外線を照射します。するとコラーゲン間に架け橋(クロスリンキング)ができ、角膜実質の強度を高める事ができます。合併症がほとんどなく経過は良好です。

《加齢黄斑変性症の治療》

昨年、新しい抗VEGF(血管内皮増殖因子)薬 アイリーア[®]が厚生労働省に認可されました。従来からの光線力学療法(PDT)と共に有効な治療となると考えられます。

《屈折矯正手術》

近視・遠視・乱視を矯正する方法として◎眼内にレンズ(有水晶体眼内レンズ(Phakic IOL)を挿入する手術と◎エキシマレーザーを用いた(LASIK・Epi-LASIK・LASEK・PRK)手術があります。当院では月に1回〈LASIK 無料説明会〉を開催中です。更にエキシマレーザーを用いた◎白内障術後の左右屈折力(視力)の違いを改善する(タッチアップ)手術と◎角膜変性症や帯状角膜変性を治療、角膜混濁を除去する(PTK)手術があります。